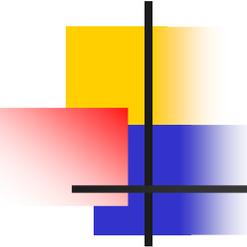


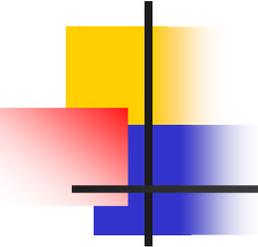
類別詞とは

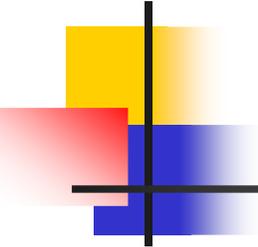
- 学校文法で助数詞と呼ばれるもの(1匹、2匹、1台、2台)などを言語学では類別詞 (numeral classifiers)と呼ぶ。

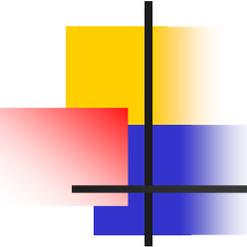


なぜ類別詞を研究するか

- 日本語には類別詞(助数詞)が存在するが、英語には類別詞はなく、マス名詞(物質名詞)とカウント名詞に分けられる。
- 日本語と英語を見て、ともすれば類別詞と数の体系は共存しないと決め付けてしまうことが多い。
- 世界の類別詞を持つ言語はすべて日本語と同じ傾向を持つとは限らない。日本語と英語を両極端であると決め付ける前に諸言語の類別詞の体系を調べる必要がある。

- 
- 類別詞を大学院ゼミのテーマとして選んだのは1990年代後半の神戸大学言語学教室に在籍していた留学生にミャンマー、タイ、中国、韓国の学生がいたので、ビルマ語、タイ語、中国語、韓国語の類別詞の体系を対照できる状況にあった。
 - 飯田朝子氏が1999年に東京大学に提出した『日本語主要助数詞の意味と用法』と題する博士論文がコーパスによるデータを観察したもので日本語に関するデータが容易に得られる状況にあった。

- 
- Alexandra Aikhenvald の *Classifiers: A Typology of Noun Categorization Devices* が2000年に出版され、言語類型論的な考察が進んでいた。
 - 認知言語学的な先駆的な研究として松本曜氏の一連の研究が指針となった。
 - これらの状況が類別詞の理論的体系を考察することを可能にした。



理論的課題

- (1) 類別詞は何に基づいて存在しているのか。
- (2) 類別詞を持つ言語と持たない言語はどこが違うのか。
- (3) 類別詞を持つ言語と数(単数・複数など)を持つ言語は相互排他的なのか。
- (4) 基本類別をたくさん持っている言語と少ない言語はどこが違うのか。
- (5) 日本語は類別詞の意味拡張が大幅に行われているという意味で特異であるが、それはなぜか。